

～三菱 96 式 2 号艦上戦闘機(A5M2)



【本機の試作機型にあたる

9 試単座艦上戦闘機と→】

本機 96 式艦上戦闘機は、零戦の一つ前に、日本海軍で正式化された艦上戦闘機です。試作機にあたる 9 試単座艦上戦闘機は、逆ガルと直線翼の 2 機が製作され、比較の結果、後者が正式化され、96 式艦上戦闘機として改良、生産されていきます。9 試単座戦闘機で試された逆ガル翼は、大径プロペラでも主脚を短くすることができる、視界を良好にすることができる等のメリットもありましたが、大きい迎角を取った際に失速しやすく、大迎角で速度を落として着陸する艦上機に仕上げることは難しかったと思われます(特許探偵団 vol.33 『逆ガル翼』で取り上げています)。一方で、米海軍のコルセア戦闘機に先駆けて、逆ガルの艦載機が誕生しなかったのは残念ですが、直線翼にしたことで、楕円形の翼の美しさが引き立つことになりました。画家・川端龍子が『香炉峰』という題号で、この機体を大きく描いた日本画を書いています。戦意高揚絵画ではあったでしょうが、工業製品を伝統的な絵画の首題として描くことは珍しいと思われ、「レディメイド」の走り(?)などと考えてしまいます。

【模型について】

フジミ(Fujimi)製 1/72 のインジェクションキットをストレートに組んだものです。主翼は上下のパーツを張り合わせるインジェクションキットのため、どうしても主翼の後端が厚くなりますが、ここをうまく削ってやれば、よい感じに仕上がります。(中川裕幸 2022 年 5 月)